沢田内科医院ニュースレター

第69号

還暦特集 還暦特集号

今回のニュースレターは『還暦特集号』としました。自分では年をとった実感はなかったのですが、今年、還暦を迎えました。昨年あたりから60回目の誕生日ですので、私もとうとう『ジサマ』の仲間入りをするのかなと思っていました。ところが、その60回目の記念すべき日の３日前に私が全く予想もしていなかったことが起きたのです。いや、この３ヶ月間、私はずっとだまされ続けていたのです。職員に、家族に、友だちに、恩師に、私の周りにいるみんなにだまされ続けていたのです。

残念ながら、西谷鮎子さんが病棟の留守を守って参加できなかった。

２ヶ月ほど前だと思うのですが、井上真利子婦長から「３月30日か31日は空けておいて下さい」と言われました。３月30日は弘前市医師会総会の日でしたので、「31日はいいよ」と伝えておきました。これまで、誕生日には似顔絵を描いたケーキでお祝いしてもらっていましたので、誕生会でもやってくれるのだろうと思っていました。

仕事が終わった土曜日だということだけで、何時なのか全然分かりません。その日は、停電した時に備え、自家発電機をボイラーにつないでもらう仕事を予定していました。何日か前に井上婦長に「31日は何時からなんだ」と聞くと、「夕方、プラザホテルで会食をすることにしています」とのことでした。「美紀子さんが迎えに行きますから、ちゃんとした服装で来て下さい」とも。送別会や忘年会などでは、出席する職員を確認したりしていましたが、今回は全然そんな動きがありませんでした。「誕生会を医院ではなく、外でやるんだな」程度に解釈し、全く不思議にも思っていませんでした。

還暦特集 ちょっと不思議な動き

３月31日、午前の診療を終え遅い昼食を摂って自分の部屋に帰ると、濃紺の背広に黒い靴下が用意してありました。まるで通夜に出席した後に何か会合がある時の服装です。私はいつも白い靴下を履いているのですが、記念写真を撮る時に一番前に座らされる時は黒い靴下を履いて行きます。もちろんこれを知っているのは私の妻です。ちょっとおかしいと思って家に電話をしても出ません。携帯に電話をすると、美容院にいま

した。「写真を撮るようだから、黒い靴下を履いて行って下さい」とのことでした。「そうか」と思いましたが、「何で医院まで持って来たのかなぁ」とちょっと疑問に思いました。後で分かったことですが、「朝出た服装で、仕事を終わってそのまま行ってしまえば困るから医院へ持って行った」ということでした。

昨年３月11日の東日本大震災の後、停電に備えて大きな容量の自家発電機を備えました。この発電機で通常の診療ができる体制はすでに整えていました。今回は自家発電機の配線をボイラーにもつなぎ、暖房も使えるようにしました。３月31日の午後、サンテクノが電気工事を行い、ボイラーが正常に動くことを確認した後、静かな医院には小堀未希さんだけがいました。病棟へ行った時に、小堀さんから「私、今日は先生にかまっていられないんです」と言われ、看護記録を書くカルテが重なっているのを見て、すごすごと院長室へ引き下がりました。

小堀未希さん（左）は、この姿になるために私にはかまっていられなかった。

妙に静まり返った医院には何か違和感がありました。６時までには時間が少しありましたので、自宅で待つことにしました。

還暦特集　プラザホテルの写真スタジオ

夕方６時前、澤田美紀子さんが迎えに来ました。何かたくらんでいるなとは思いましたが、言われるままについて行きました。ホテルの駐車場に着くと、電話で連絡を取っていました。そして、ホテルへ入って行ったのですが、まず、写真スタジオに案内されました。そして、スタジオの前で、赤いちゃんちゃんこを着せられました。「そうか、この恰好で写真を撮るのか。還暦なんだから無駄な抵抗をしてもだめだな」、と妙に納得していました。

そして、スタジオのドアを開けた瞬間、何と真ん中に私の恩師、元弘大学長の吉田豊先生が！！　何で？？一瞬、腰が引けてしまいました。気持ちを持ち直して中に入ると、職員がみんな整列し、妻の紀子、木村あさの先生、故千葉陽一先生の奥様の智子さん、長男の直也、びっくりです。そして、最前列の真ん中に座らされると、何とカメラマンは写真館ハセガワの長谷川正之さんではないですか！　長谷川さんとはフェイスブックでお友達になったのですが、まだ会ったことがなかったのです。これにもびっくりして立ち上がってしまいました。そして、振り返ると、何と、盛岡にいるはずの娘の愛がいました！　「愛！　何でここにいるんだ？！！」と思わず叫んでしまいました。

娘と妻は和服を着ていました。美容院へ行っていたのは当然のことだったのです。職員もみんなドレスを着たりおめかししていました。外来が終わった後の医院はシーンとしていて、小堀未希さんが私にかまっている時間がなかったのも理解できました。時間が迫っているのに私が病棟へ様子を見に行ったので気が気でなかったのでしょう。

これでほぼ全容が分かりましたが、この３ヶ月ほど、私はみんなにだまされていたことにも気づきました。まったくの驚きでした。

還暦特集 還暦祝賀パーティー

写真を撮った後は、会場へ移動してパーティーの開始です。この時点で開会の挨拶をした井上婦長、宴会担当部長の清野法子さん、澤田美紀子さんあたりが黒幕らしいことが分かりました。

直也とさやかさんの歌で始まり、吉田先生、木村先生、千葉智子さんからお祝いのお言葉をいただきました。井上婦長のお兄さん手作りのクス玉も用意されていました。そして、私の小さい頃、学生時代、これまでの思い出の写真で綴ったDVDが上映されました。全く私が知らないうちにたくさんの写真が集められていました。DVDの中では、八王子にいる甥と姪のハピーバースディの歌、私の両親のメッセージ、高校からの友人で弘前市議会議員の佐藤哲さんと高校の恩師の内海康也先生からのメッセージがありました。私には内緒で。

次男の祐也は八戸市の青森労災病院に勤めているのですが、休みが取れずに参加できなかったようです。でも、DVDにメッセージがありました。

パーティーの途中で結婚式でもないのにお色直しとして着替えをさせられました。娘の愛にエスコートされ会場を出ると、そこにはTシャツがありました。Tシャツです。何と、胸にはブタの顔、背中には「気合」という２字が印刷されていました。この文字は、相馬のんきさんに書いてもらったことがすぐに分かりました。「のんきさんも知ってたのか！！」という気分でした。

赤いちゃんちゃんこをブタのTシャツに着替えて再入場です。誕生日のケーキも用意されていました。34年振りのケーキ入刀でした。娘の愛が、挨拶代わりにDVDを作ってお祝いしてくれまし

た。後でDVDをもらったのですが、そのファイル名は『マル秘企画』でした。職員からは花束や私の家族の似顔絵の額などをもらいました。

主賓の挨拶と言われても、気の利いた内容を用意していませんでした。しかし、これを準備してくれたみんなに対しての感謝、これまで私に協力してくれたことへの感謝、沢田内科医院の経営の基本に流れている精神、これからのことなどを話しました。ご馳走を食べたり、写真を撮ったり、みんなで歌を歌ったり、４時間近くの楽しい時間はあっという間に過ぎました。

この還暦祝賀パーティーには３ヶ月に及ぶ準備期間を要したようです。ドッキリカメラというテレビ番組がありましたが、今回の企画はそれ以上のものでした。私にはそのような動きがほとんど分かりませんでした。職員だけでなく、私の家族や友だち、恩師の先生方、関係する人たちがみんな協力して私に悟られないようにしたようです。ほんとにびっくりでした。

みんなが背中に「気合」と
書かれたＴシャツを着ていた。

このパーティーの全容はほぼ分かりましたが、ただ一つ疑問がありました。後で聞いてみました。「あのケーキに馬が描かれていたけど、何で馬が２頭なんだ？」と。井上婦長の答えは、「あれは、タツなんです」と。私は辰年です。そうして見れば、馬のたてがみではなくて角のようです。今でもあれがタツだとは思えません。

タツだというが私には馬にしか見えない。

この還暦祝賀パーティーで嬉しかったことの一つが私がいつも言っているキーワードが使われていたことです。『天下の賢』、『気合』、『常に考える』です。医院に通院する患者さんたちを診る時に根底に流れている精神をみんなで共有できていることを確認できた還暦のパーティーでした。

発　　行：　〒036-8261 青森県弘前市茂森新町1-6-4　　沢田内科医院　院長　沢田美彦
ホームページ：　http://www.sawada-naikaiin.com/　　TEL 0172-37-7755　FAX 0172-37-7788